

平成30年度 多様な新ニーズに対応する 「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン インテンシブコースセミナー

日 時: 2019年2月16日(土) 13:00~16:00
 場 所: 兵庫県立大学 明石看護キャンパス 多目的ホール
 テーマ: 看護の臨床における現象を読み解く ~妊娠とがん~
 講 師: 出口 雅士先生(神戸大学医学部附属病院 特命教授/診療科長補佐)
 受講者: 45名
 アンケート回収:31名(回収率68.9%)
 主 催: 兵庫県立大学看護学研究科 多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン代表 内布敦子



<概要>

神戸大学医学部附属病院 特命教授/診療科長補佐 出口 雅士先生から、「看護の臨床における現象を読み解く ~妊娠とがん~」として、妊娠中にがんと診断された方の医療やケアのあり方について、医学的な観点だけでなく、家族が抱える状況なども考えていく必要があることなど、具体的な例を交えてご講演いただきました。

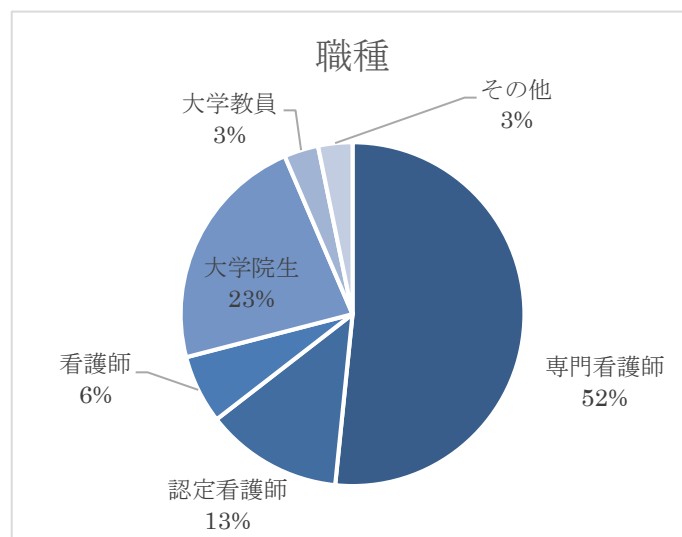
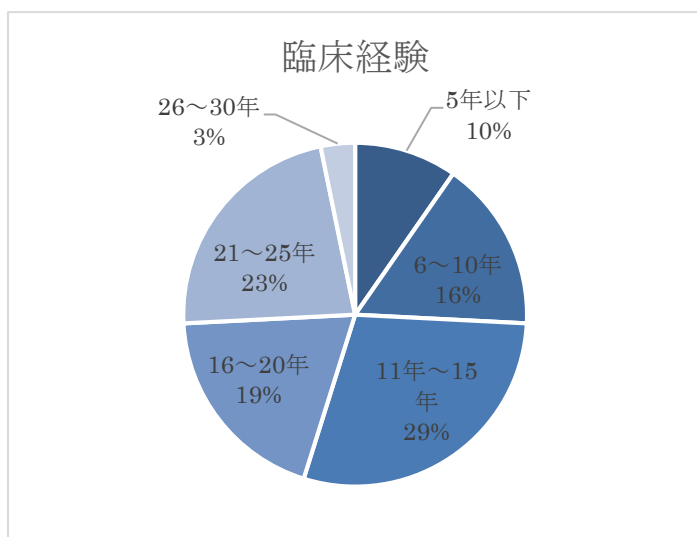
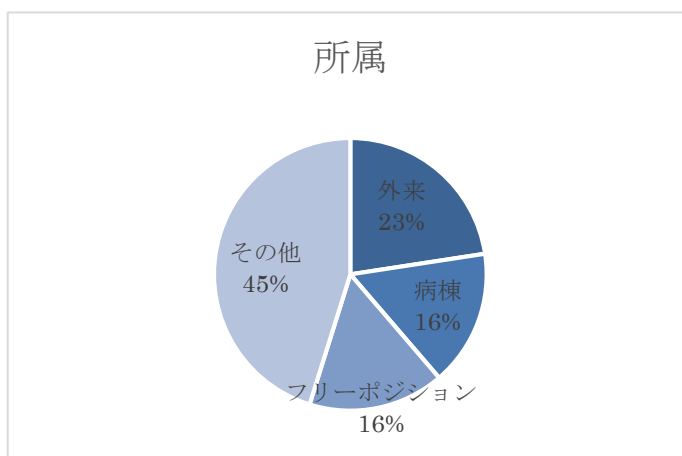
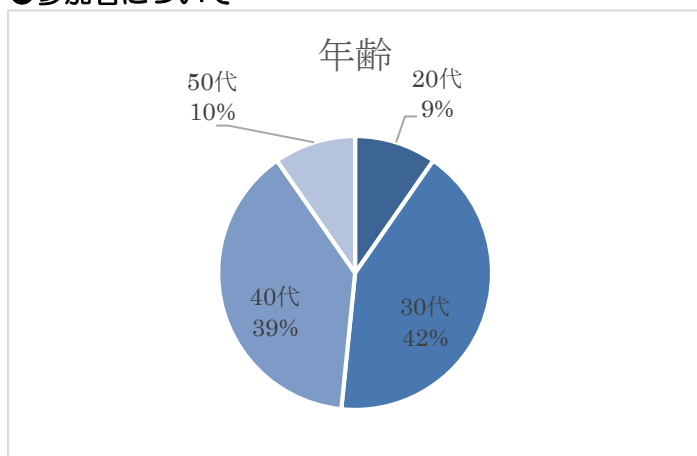


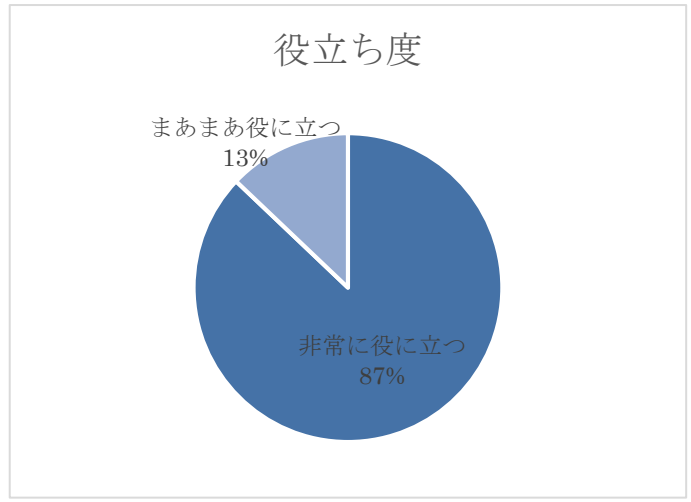
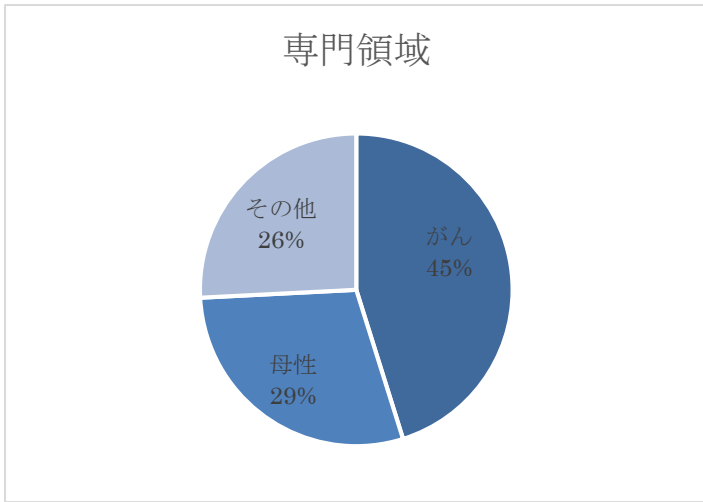
後半は、佐藤 陽子先生(昭和大学保健医療学部・助産学専攻科講師/昭和大学病院 総合周産期母子医療センター産科部門・母性看護専門看護師)からご提示いただいた事例をもとに、出口先生からの専門的な助言もいただきながら、参加者で事例検討を行いました。異なる領域を専門とする看護師からの意見はとても勉強になり、改めて複数の領域の連携の重要性や課題を確認できる貴重な機会となりました。



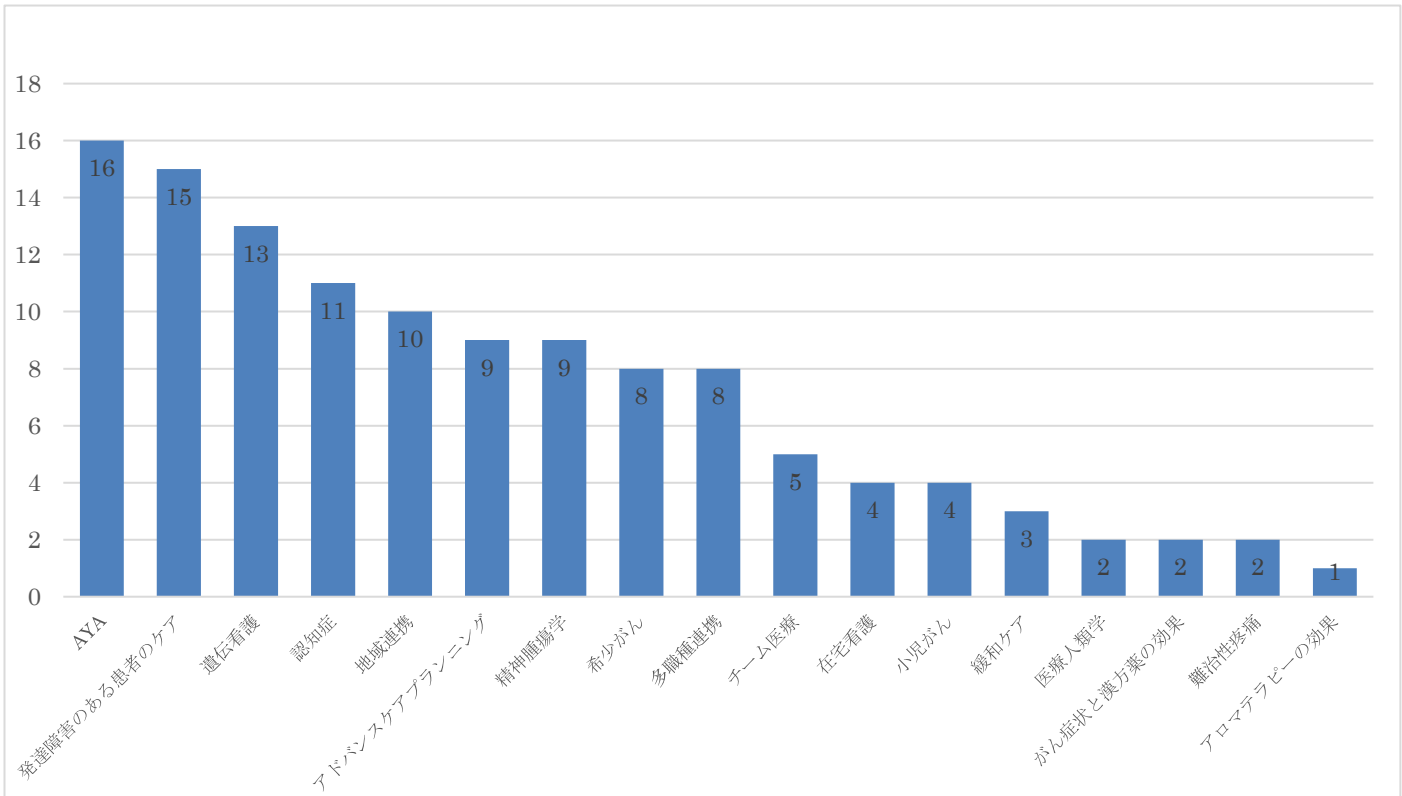
<アンケート結果>

●参加者について





●今後、セミナーに期待するテーマ



●参加者からのコメントより

▼今回のセミナーで、あなたが感じたこと、印象に残ったことがあれば自由にお書きください。

- ・ 事例をもとに意思決定ポイントとなる場面をグループで分析し理解が深まりました。
- ・ 母性領域の CNS の人たちと事例検討できたことで専門性を意識する機会になりました。
- ・ とっつきにくい「がん」を自分の分野との関連で学びたかった。本当に有意義な時間でした。
- ・ 個ではなく家族全体を見て悪い循環ではなく、良い循環となるように橋渡しをしたり、本人、家族にとってベストと思えること支えていったりすることが大切であり、リリースをうまく活用し、連携していくことの重要性を改めて感じた。
- ・ 妊娠中のがん患者さんを受け持ったことがなかったので、全体的にとっても勉強になりました。
- ・ がん合併妊娠という問題に対して多く専門職のエネルギーが集結される必要があることが実感できた。
- ・ 特に時間が限られている中、各専門職の力を集約する存在が必要だと感じた。
- ・ 自施設ではがん合併妊娠のケースにかかわることがないですが、かかわる時の大事な視点を学ぶことができ

ました。また、他領域の CNS との協働についても展望が見えたので刺激になりました。

- ・ 専門看護師や多職種の協働の必要性
- ・ 母性など他領域の参加者と GW できたことで知識やカンファレンスのノウハウを学べた
- ・ 母性領域の専門的内容がきけたこと、複数いる CNS との連携や多職種の調整など参考になりました。ありがとうございました。
- ・ 母性の領域から必要な視点をディスカッションできたこと
- ・ 母性を学べるがんの研修はほとんどないので、とても興味深かった。他分野の CNS とカンファレンスできたのもとても有意義だった。
- ・ 家族と本人と CNS との連携
- ・ いろいろな専門性を持つ他領域の CNS、CN と多面的にケアを考える重要性を改めて感じる事ができました。また、それがとても充実して楽しかったです。
- ・ 専門職間のコーディネート・アプローチの方法を知り学びとなりました。
- ・ 出口先生の講話は非常にわかりやすくとても勉強になりました。出口先生も佐藤先生も事例を出していただき、CNS としての役割を検討できたのがとても有意義でした。佐藤先生の CNS としての働きは自分の臨床にとっても参考になりました。
- ・ グループワークを通して、多くの CNS さんの思考や判断過程を学ぶこともでき、とても勉強になりました。また他の領域の方の意見を聞くことで視点が異なることが分かり、つながっていくことで、よりよい看護が行えることがとても実感できました。
- ・ がんの領域ではわからないことや価値観など他領域の人とディスカッションできてとてもよかったです。
- ・ 他領域の CNS との連携の大切さをあらためて感じました。
- ・ 母性の CNS の視点がどのように構造をとらえているのか印象に残りました。
- ・ 母性の領域、がんの領域でも調整を担う CNS の役割が大きいと感じた。
- ・ 自分は周産期、母子について経験がなかったので、情報収集の視点、アセスメントが非常に勉強になった。

▼がん合併妊娠への対応について、今、最も強く感じている課題をお書きください。

- ・ 妊娠と治療、どちらを優先するのか意思決定することも難しいが、意思決定後の精神的支援も難しいと感じています。
- ・ 予後や治療の見通しとともに妊娠・出産期にむけて整理すべき情報が学びになりました。
- ・ 医療サイド、医師間の連携
- ・ 本人の生活と育児の加わった生活という先を見通した上で、妊娠継続するか否かの意思決定を支援していくことが難しく課題だと感じる。
- ・ 産科のないがん専門 HP では産科の他院とも連携しなくてはならないので、難しさがある。そういうことを相談できる窓口もない。
- ・ 自分の専門外の領域の知識が乏しいため、協力を求められる場合はよいができない場合の対応
- ・ 所属している施設は小児・母性領域がない分、スタッフの興味・関心が低い。どのようにスタッフのボトムアップを図るかが課題。
- ・ 連携先の施設との関係性や役割分担が難しいと感じる
- ・ 中絶、誰の生命を優先するか
- ・ 多くの診療科が関わるため継続的なサポートが難しい
- ・ 多職種との連携
- ・ 部署や部門、職種をまたぐので、コミュニケーションを円滑にするのが難しい。局面によって中心的にコーディネートする人が変わっていくことが望ましいと思う。



- ・ 本人と児、家族がそれぞれの考えを調整していくことが難しいです。
- ・ それぞれの専門分野の方との連携
- ・ 連携の必要性・看護の必要性をととても強く感じました。
- ・ 誰が何をするか連携が難しいです。知識も少ないですし…。
- ・ 時間に迫られる中で気持ちも定まらない中、ACP を行っていかなければならず、自分のみならず胎児や家族の調整も必要なことを学びました。
- ・ がんの治療を優先すべきか、児の生命を優先すべきか
- ・ 未経験ですが、妊孕性の温存についての情報提供が臨床の課題と耳にしたことがある。

▼その他、何かご意見・ご感想があればお聞かせ下さい。

- ・ 母性だけでなく、精神疾患など他分野との研修会なども企画してもらいたい
- ・ がん妊孕性について、連携の在り方を含め企画を希望したいです。とても有意義なセミナーをありがとうございました。グループワークはとても有効でした。